

企業で考えなければならない
環境責任とは

企業の環境責任

1. 企業の環境責任とは

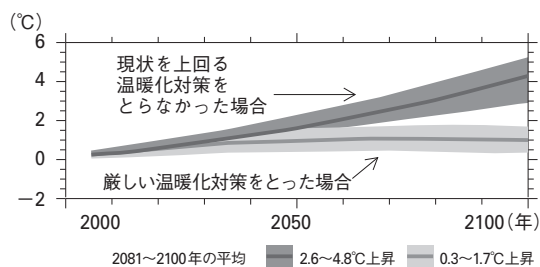
地球上でさまざまな環境問題が発生している。たとえば温暖化や強大な台風の発生、大気や水質の汚染、資源の過剰利用などである。

企業のCSR(社会的責任: Corporate Social Responsibility)が叫ばれて久しい。企業に求められているのは生産性の効率追求だけではなく、人類が生きていくために必要な持続可能な環境モデルの創成である。企業活動は地球環境に何らかの環境負荷を与えている。地球環境の保全は企業の責任で、企業の成長と環境保全との両立を図っていかなければならない。これを実践するにはトップの指導力が問われる。

2. 世界の温暖化の実態

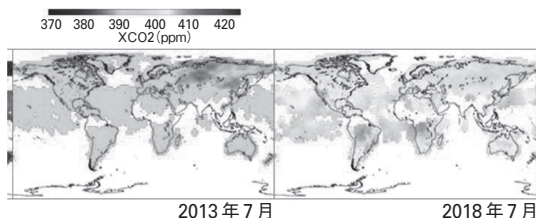
IPCC第5次評価報告書によると、有効な温暖化対策をとらなかった場合、21世紀末(2081年～2100年)には平均気温が20世紀末(1986年～2005年)と比べて2.6～4.8℃も上昇してしまう(図1)。厳しい対策を講じて0.3～1.7℃高くなると予測される。最近の気温が1880年に比べ2012年度は0.85℃上昇しているが、近年の異常気象(台風、集中豪雨、竜巻など)は凄まじい。気温が2.6℃以上も上昇すると、とんでもない気象状態になってしまうだろう。このため、各国の企業の力を合わせて対策を講じなければならない。

図1 1986年～2005年平均気温からの気温予想



出典: IPCC第5次評価報告書

図2 世界のCO₂濃度分布の推移



出典: 環境省資料 筆者加工

3. 環境負荷を軽減させるための企業責任

速いスピードで地球上のCO₂濃度が増えていることがわかる(図2)。このため、世界で環境施策の積極的な取組みが求められている。環境負荷に係る規制は国ごとの事情により異なっている。地球上の環境負荷の影響を最小限にするには、各企業で次のような取組みが必要と思われる。

- ①汚染の予防として環境法規制の順守と未然防止策を講じる。これは環境管理技術を強化させ、自社で発生している環境負荷物質を徹底的に洗い出し、対策を講じていく
- ②法律よりも厳しい自社基準を設定し、それを順守する。たとえば、省エネ機器導入や省資源化として歩留りの徹底追求などがある
- ③環境技術の開発を強化する。環境保護のため、自社の環境負荷物質を大幅に削減させる技術開発を行う
- ④社員への徹底した環境教育が必要である。企業によっては社員間で環境に対する認識にバラツキがあるため、全社員に環境教育が求められる

4. 企業の環境責任のポイント

環境に関する国際マネジメントシステムはISO 14001:2015である。この2015年版は事業プロセスへの統合が要求された。経営全体で監視していなければならない。

そして環境負荷を軽減させるには、ISO 14001:2015の積極的な運用と活用が求められる。また自社のみならず、協力企業への取組みも強化された。法律よりも厳しい自社基準を設定することにより、世界に認められる企業になる。

(鈴木 宣二)